

涙腺原発MALT型リンパ腫の1例

門前 芳夫

県立広島病院放射線科

MALT-type Lymphoma of the Lacrimal Gland: A case report

Yoshio Monzen

We report a rare case of MALT-type lymphoma of the lacrimal gland in a 29-year-old woman. CT scan demonstrated a solid homogenous mass in the right lacrimal gland fossa and the palpebral lobe of the lacrimal gland with contrast enhancement. The mass displayed slight hyperintensity on T1-weighted images and hyperintensity on T2-weighted images with fat saturation. The mass demonstrated an arc-like contour, and involved both the palpebral lobe and orbital lobe of the lacrimal gland. These characteristic findings may be helpful in the diagnosis of this malignancy.

はじめに

MALT型リンパ腫は、粘膜関連リンパ組織(mucosa-associated lymphoid tissue; MALT)から発生するB細胞性低悪性度群非ホジキンリンパ腫である。今回、涙腺原発MALT型リンパ腫の1例を経験したので報告する。

症 例

症例 29歳、女性。

主訴：右眼窩腫瘍。

現病歴：1999年夏頃より右眼窩腫瘍・右眼部の異物感を自覚した。腫瘍が増大傾向を示し、2000年3月、精査目的のため県立広島病院眼科を受診した。

入院時現症：右上眼瞼上外側に表面平滑・弾性硬の腫瘍を触知した。

眼窩CT検査：右眼窩・眼球を覆う充実性の腫瘍を認めた。腫瘍は境界明瞭で涙腺に連続していた。腫瘍のCT値は、単純CTで41HU、造影CTで89HUを示した。骨破壊などの浸潤性発育は認めなかった(Fig. A, B)。

眼窩MRI検査：扁平の腫瘍が、眼窩上壁と眼球の間を埋め(arc-like contour)、腫瘍は眼瞼部涙腺と眼窩部涙腺に存在した。T1強調像で外眼筋より軽度高信号、脂肪抑制T2強調像で外眼筋より高信号を示し、腫瘍の内部は均一であった(Fig. C~E)。

臨床所見：画像診断で涙腺以外に悪性リンパ腫を示唆する所見を認めなかった。

手術所見：2000年8月、涙腺腫瘍摘出術が施行された。周囲組織との癒着は軽度であったが、腫瘍は眼窩深部まで達していた。

病理組織所見：右涙腺を中心に形態的に均一な小型の異型を伴うリンパ球がびまん性、浸潤性に増殖していた。部分的にlymphoepithelial lesionを認めた。免疫組織化学的検討では、腫瘍細胞はB細胞のマーカーであるL26が陽性で、T細胞のマーカーであるUCHL-1は部分的に陽性を示した。アポトーシス関連遺伝子蛋白であるBcl-2が陽性所見を示した。以上の所見より、涙腺由来のMALT型リンパ腫と診断された。

Research Code No.: 510.9

Key words: MALT-type lymphoma, Lacrimal gland, MRI, CT

Received Jul. 2, 2001; revision accepted Oct. 18, 2001
Department of Radiology, Hiroshima Prefectural Hospital

別刷請求先
〒734-8530 広島市南区宇品神田1-5-54
県立広島病院放射線科
門前 芳夫

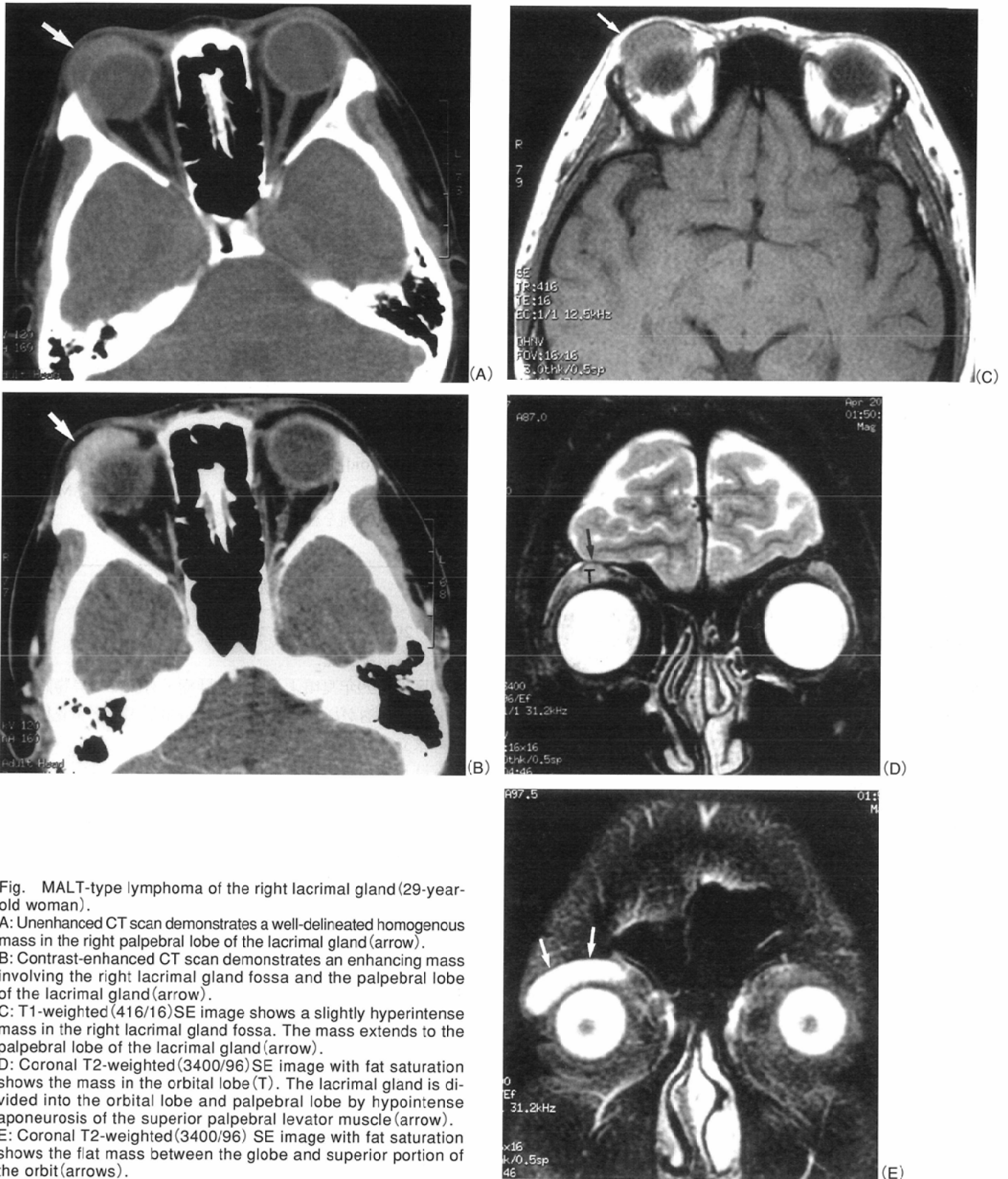


Fig. MALT-type lymphoma of the right lacrimal gland (29-year-old woman).

A: Unenhanced CT scan demonstrates a well-delineated homogenous mass in the right palpebral lobe of the lacrimal gland (arrow).

B: Contrast-enhanced CT scan demonstrates an enhancing mass involving the right lacrimal gland fossa and the palpebral lobe of the lacrimal gland (arrow).

C: T1-weighted (416/16) SE image shows a slightly hyperintense mass in the right lacrimal gland fossa. The mass extends to the palpebral lobe of the lacrimal gland (arrow).

D: Coronal T2-weighted (3400/96) SE image with fat saturation shows the mass in the orbital lobe (T). The lacrimal gland is divided into the orbital lobe and palpebral lobe by hypointense aponeurosis of the superior palpebral levator muscle (arrow).

E: Coronal T2-weighted (3400/96) SE image with fat saturation shows the flat mass between the globe and superior portion of the orbit (arrows).

考 察

MALT型リンパ腫は、悪性リンパ腫のREAL分類にて辺縁帯B細胞性リンパ腫の中の節外性MALT型リンパ腫として位置づけられた¹⁾。腫瘍細胞はBリンパ球由来で中細胞型である。進行は緩慢で予後良好なリンパ腫である。涙腺が好

発部位である眼窩リンパ球増殖性疾患は、病理組織学的に炎症性偽腫瘍・反応性リンパ球増殖症・悪性リンパ腫に大別される。炎症性偽腫瘍は組織学・生物学的に腫瘍性性格は持たない。反応性リンパ球増殖症は免疫組織学的に非腫瘍性の反応性病変とされていたが、免疫遺伝学的検索で腫瘍性起源が証明され、大半は小リンパ球性リンパ腫と考え

られている²⁾。涙腺悪性リンパ腫の多くは低悪性度の小リンパ球性リンパ腫である²⁾。涙腺MALT型リンパ腫の頻度は不明である。

涙腺由来のMALT型リンパ腫のCTやMRIの報告はきわめて少ない。単純CTで眼球上耳側に軽度高吸収域の腫瘤を示す³⁾。MRIはT1強調像で外眼筋と等信号、T2強調像で脂肪より低信号を示す⁴⁾。涙腺MALT型リンパ腫と鑑別すべき疾患に良性多形腺腫、炎症性偽腫瘍が挙げられる。良性多形腺腫のCTは、均一に増強効果を示す境界明瞭な充実性腫瘍を呈する⁵⁾。MRIは、T1強調像で外眼筋と等信号、T2強調像で外眼筋より軽度高信号を示す⁵⁾。したがって、涙腺MALT型リンパ腫と良性多形腺腫の区別が、CTやMRIの信号強度の比較では困難である。MRIはCTよりも組織コントラストが優れ、病変の広がりをも的確に描出できる。MRIでは腫瘍の部位や形状で良性多形腺腫と悪性リンパ腫の鑑別が可能である。すなわち良性多形腺腫の形状は円形で、病変が眼窩部涙腺に存在し、悪性リンパ腫は扁平で、病変が眼瞼部涙腺にも存在し、arc-like contourを呈する^{5,6)}。悪性

リンパ腫の一亜型であるMALT型リンパ腫は慢性炎症や自己免疫的機序が前駆病変になるため、眼窩部涙腺や眼瞼部涙腺の両者に存在する可能性が高い。したがってMRIで信号強度・形状から涙腺の悪性リンパ腫が示唆される時、さらに腫瘍が眼窩部涙腺や眼瞼部涙腺の両者に存在する場合、MALT型リンパ腫を考慮しなければならない。

炎症性偽腫瘍は、急性～慢性期の種々の過程をとる。急性期はリンパ球、形質細胞の浸潤、慢性期は線維化が主体なのでT1強調像、T2強調像で脳白質と低～等信号を示し、病巣の状態によりMRIの信号強度が異なる^{2),6)}。眼窩部涙腺や眼瞼部涙腺の両者に存在する頻度が高いのでMRIでMALT型リンパ腫との区別が困難と思われる⁶⁾。

ま と め

画像診断の報告がきわめて少ない涙腺原発MALT型リンパ腫のCT・MRIについて検討した。MRIが本疾患の診断の手がかりになる。

文 献

- 1) 細根 勝, 佐藤雅史, 前田昭太郎: 悪性リンパ腫の病理分類—分類の基本理念と新WHO分類—. 画像診断 20: 460-476, 2000
- 2) 石田康生: 眼科領域のリンパ性腫瘍とその近縁疾患. 箕田健生編: 眼内腫瘍 22-28, 1999, 金原出版, 東京
- 3) 白井久美, 岡田由香, 雑賀司珠也, 他: 涙腺原発と思われるいわゆるMALTリンパ腫の1例. 眼科臨床医報 90: 604-

606, 1996

- 4) Kiratli H, Soylemezoglu F, Bilgic S, et al: Mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma of the lacrimal gland. Ophthalmic Plast Reconstr Surg 15: 272-276, 1999
- 5) 若林千恵子, 前原忠行: 涙腺疾患—腫瘍性疾患と炎症性疾患. 臨床画像 14: 1212-1216, 1998
- 6) 山崎美保子: 涙腺MRIの検討. 日磁医誌 16: 88-96, 1996